



2月のほけんだより



気温が低く乾燥した日が続いています。2月4日は、暦の上で立春で春を迎える時期とされていますが、一般的に1月下旬から2月にかけて最も寒くなると言われています。これからの時期、本格的にインフルエンザウイルスが流行してきます。また園でもインフルエンザ感染症、溶連菌感染症、アデノウィルス感染症などが出てきています。部屋の湿度を50～60パーセント程度に保つだけで、ウイルスの減少につながります。また引き続き、手洗いうがい、人混みに入る時にはマスクの着用、こまめな水分補給を心がけましょう。

心配な インフルエンザ脳症

インフルエンザの合併症で特に気をつけたいのがインフルエンザ脳症。特に0、1、2歳児は発症しやすく、後遺症が残ったり、重症化すると命を落としたりすることもあります。万が一のような症状が見られたら、すぐに救急車を呼んでください。

こんな症状は脳症かも？

- インフルエンザを発症して1～2日後に突然高熱が出る
- けいれんが10分以上続く
- けいれんを繰り返す
- 呼びかけても反応しない、ぼーっとしている、目がうつろである
- ずっと寝続けている



インフルエンザと かぜの違い

インフルエンザ		かぜ
インフルエンザウイルス	原因	細菌、ウイルス
冬から春に多い	時期	一年を通して
全身症状	病気の始まり	鼻水、くしゃみ
39～40℃	熱	37～38℃くらい
大流行することも	伝染	多くの人にうつらない
手足や腰に強く出る	関節痛	ほとんどない
肺炎、気管支炎、インフルエンザ脳症 など	合併症	安静を守ればひどくならない

インフルエンザは、発症し5日を過ぎて、かつ、熱が下がってから3日を過ぎるまでは、園はお休みします

アデノウィルス感染症について！！

人に感染するアデノウィルスには51の種類があるといわれており、そのうちのいくつかが急性感染症をおこします。アデノウィルス感染症としては、咽頭結膜炎（プール熱）、流行性角結膜炎がよく知られていますが、その他にも、気道炎、胃腸炎、結膜炎、膀胱炎などいろいろな臨床症状の感染症があります。多くのアデノウィルスは、潜伏期は5～7日で、感染経路は飛沫、接触によります。特別な治療法はありません。それぞれの症状に対する対症療法を行い、高熱がある場合や食欲不振がある場合は、安静にして脱水症にならないように水分補給をします。アデノウィルス感染症の中で、咽頭結膜炎と流行性角結膜炎では、学校保健安全法で出席停止の期間の基準が決められています。